

# 農作物技術情報 第3号の要約

令和2年5月28日発行  
岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

作目	技術の要約
水稲	<p><b>生育状況</b>: 県全体の田植え盛期は平年並み。苗は平年に比べ乾物重が少なく充実度はやや劣る。</p> <p><b>技術対策</b> 分けつ発生を促進させるため、好天時は浅水とする。低温・強風時は深水とする。 目標とする茎数が確保されたら、すみやかに中干しを行う。 取置苗はいもち病の伝染源になるので、直ちに処分する。 斑点米カメムシのふ化盛期は平年並みと予測される。地域一斉草刈によりカメムシの密度低減に努める。</p>
畑作物	<p><b>生育状況</b>: 小麦の出穂期は平年並となった。生育が旺盛な圃場が多く、今後の天候によっては収穫作業が早まる可能性もある。</p> <p><b>技術対策</b> 小麦: 赤かび病防除は適期に確実に実施する。圃場での抜き穂作業も、穂が青く見やすい時期に実施する。収穫作業に備え、早めに乾燥施設との連携や収穫機械の整備などを行い、万全の体制を整える。 大豆: 排水対策・耕起・砕土などを丁寧に行う。種子消毒・播種・除草剤の散布などは計画的に実施し、適正な栽植密度を確保する。</p>
野菜	<p><b>生育状況</b>: 施設果菜類は順調～やや遅れの生育で収穫が始まっている。露地果菜類は5月下旬～6月上旬頃が定植のピークとなる見込み。雨よけほうれんそう、露地葉菜類も順調～やや遅れで生育。</p> <p><b>技術対策</b> 全般: 圃場の排水対策を徹底するとともに、生育促進、施肥効率の改善等をはかるため、適時灌水を行う。 施設果菜類: 温度・湿度管理を徹底し、草勢維持に努めるとともに、病虫害の初期防除を徹底する。 露地果菜類: 定植後の活着促進と初期生育確保のため、土壌水分と地温の確保に努める。 雨よけほうれんそう: ハウスの換気や、圃場水分管理を適切に行い、病虫害の発生や生育不良を防ぐ。 露地葉菜類: コナガ、ナモグリバエ等害虫の適期防除を行う。アスパラガスはL品割合を目安に収穫を終了するとともに、茎枯病対策を徹底する。ねぎは生育状況を見ながら培土を行う。</p>
花き	<p><b>生育状況</b>: りんどうの生育は平年並みのところが多い。小ぎくは8月咲品種ではほぼ平年並みの定植となり生育は順調。9月咲品種は育苗中で概ね生育良好。</p> <p><b>技術対策</b> りんどう: 草丈が最も伸長する時期なので乾燥時はかん水する。病虫害は、リンドウホソハマキの適期防除に努める。 小ぎく: 乾燥時はかん水する。整枝作業が遅れないよう計画的に進める。白さび病は、発生状況に応じて予防剤と治療剤を適切に使い分ける。</p>
果樹	<p><b>生育状況</b>: りんごの開花は平年より2日早まり、ぶどうの生育はほぼ平年並である。りんごの結実量は概ね例年並を見込んでいるが、凍霜害等の影響で地域や品種によるバラツキが大きくなる可能性がある。</p> <p><b>技術対策</b> りんご: 今年の果実肥大と来年の花芽確保のため、早期の着果負担軽減が重要である。このため満開30日頃までにはあら摘果が終了できるよう、計画的に摘果作業を進める。病虫害では、黒星病とハダニ類の発生動向には注意し、薬剤は降雨前散布を心がける。 ぶどう: 気温が高く経過すると開花は平年より早まるので、計画的に開花前後の管理を進める。</p>
畜産	<p><b>生育状況</b>: 県全体で、牧草の生育はやや遅れている。</p> <p><b>技術対策</b> 牧草: 一番草の収穫・調製のタイミングは、飼料の栄養成分、収量に大きく影響するので、適期収穫を行う。 飼料用とうもろこし: 収量確保とサイレージの品質向上のため、除草剤の土壌処理、生育期処理を行う。虫害が発生しやすい時期となるので、早期発見に努め被害拡大を防止する。 家畜: 暑熱対策は本格的に暑くなる前に行う。</p>

詳細については「いわてアグリベンチャーネット」をご覧ください。 <https://i-agri.net>（「いわてアグリ」と検索すると上位に表示されます）

○農薬適正使用: 使用前に必ずラベルを確認し、使用基準の厳守と飛散防止を心がけてください。

○春の農作業安全月間実施中(4月15日～6月15日)

「慣れるほど 忘れてしまうその危険 心につけて若葉マーク🍃」

次号は令和2年6月25日(木)発行の予定です